

## 第4回市民協働指針検討委員会 議事録

日 時	平成19年1月12日(金) 18:30~20:30
場 所	202会議室
出席者	委 員 泉谷 清、鎌倉 洲夫、小杉 恵津子、吉田愛子 久保 純一、松本 史典、富塚 広、瀬川 真弓 恵庭市 広報広聴課長 吉田 真俊
<p>1. 第3回委員会議事録確認</p> <p>2. 質疑及び意見交換</p> <p>委 員： 前回到引き続き「協働」って何なんだろうという事を時間をかけて考えていきたい。</p> <p>委 員： 恵庭のまちが好きになれば自分の住んでるところを汚くしない。自分の住んでいるところを大事にする一人一人の思いが大きな力となる。</p> <p>委 員： 自分の家の中のゴミは当然拾う。それは自分のテリトリーと考えているため、どこかで線を引いて自分のテリトリー、コミュニティとそれ以外を判断している。その範囲が狭くなっている。</p> <p>委 員： マンションの共有スペースの雪を当然のように道路に出している。地域のゴミひろいも敷地内だけで公共の場所は関係ない。マナー以前の意識で自分の狭いテリトリーの中だけを考えるモノサシとなっている。</p> <p>委 員： 人それぞれ生育暦が違うので常識もそれぞれ。</p> <p>委 員： マナーを教えられていない。</p> <p>委 員： 家庭ゴミを捨てに来るので道川の駅にはゴミ箱を置いていない。</p> <p>委 員： ゴミの捨てられているところにゴミが捨てられる。他の人もそうだから私一人くらいと思うところがある。</p> <p>委 員： 茅野市では児童会館の高校生版を設置し、自主運営させうまく当事者意識をもたせている。ゴミは年齢問わずみんなの問題であり、当事者意識をもってもらって投げかけができればいい。</p> <p>委 員： 何かに関わって行動していく事によりテリトリーが広がる。そういうことへの仕掛け作りが大切。</p> <p>委 員： 町内ごとにゴミ拾いが行われているが、例えば全市一斉に実施できれば意識の高揚につながる。</p>	

- 委員： ゴミを拾う活動は大事だが合わせてそのゴミがどう処理されているかを認識する事も必要で、そうしたことが根本であるゴミの減量化につながる。  
協働指針を検討しているが、自治基本条例につながっていくという位置付けが必要である。  
本委員会の議事録は公開するのか。
- 事務局： 策定する指針を2年3年と運用し、市民も行政も協働についての意識を定着させ、その上で条例を策定していく。委員会の議事録はホームページに公開している。
- 委員： これからはゴミをどうやって減らすかが問題。集めたり処分したりとかは行政の仕事だが、ゴミを減らしていくとなれば行政だけでは出来ない。市民一人一人がどうやって減らすか考え行動していかなければならない。そうした事にもこれからの協働の重要性が出てくると考える。マーケットなどで買い物袋の有料化が始まっており、減量化を考えるきっかけとなっている。マーケットでは有料化による客の反発を恐れているが、そういうことが起こらないために市民の力が必要となっている。行政としてもそうした企業を支援する動きが必要。こうしたことが市民、企業、行政3者の協働事業ということになっていくのではないか。
- 委員： 以前、東京の生協での調査だが、有料化によって80%の客が袋を持ってくるようになった。ただ1社だけでは客を失うのではという恐れで実行できないが、行政が全市的に指導し、市民もそれを支持することが必要。ゴミ問題にしても市民が一斉に取り組む事が必要と考える。
- 委員： 恵庭のヨーカドーは道内の他店に比べて袋は要らないという客が多く意識が高いとテレビで紹介されていた。やはり市民の意識が重要だ。
- 事務局： ゴミに対する意識は千差万別で、生ゴミを家に置くのは臭いから、指定曜日なんか関係なしに出したり、出勤途中に道端に置いていく人から、きちっと分別し減量している人まで様々だ。
- 委員： 市では千歳市の焼却処理施設での処理委託を考えているようだが、受け入れてもらうためには、分別はもちろんの事、減量化、生ゴミの水切りの徹底など意識付けが必要。
- 委員： ゴミの広域処理について検討が進められていたが、現状は白紙状態となっているのか。
- 事務局： 検討が進んでいたが、北広島市で独自の処理方式を取るようになり広域のスケールメリットがなくなってしまったようだ。そのため千歳市にお願いをしている。
- 委員： 一つの課題に向けて市民が一斉に取り組むというのは、その事に対する意識が様々で、同じ方向に向けるのは大変難しい。いっしょにやるという意識付けが必要。
- 委員： ゴミ問題は全市的に全ての年齢層に関係するもので、取り組みやすい。みんなで取り組んで、自分の家の中から町内、市内へと広がっていけば、まちづくりへの参加の仕方が変わっていく。
- 委員： 春と秋の清掃を全町内会一斉にそろって実施し、何処へいっても同じ状況になるような目指す姿が示されればいい。
- 事務局： 実施することから参加・協働の考え方につなげていく事が必要。
- 委員： 指針の作りですが、今ミクロ的なことで話し合っているが、マクロ的な指針というところにどう結び付けていくのかを考える必要がある。危機感を抱かせるようなことを示す事も必要かもしれない。
- 事務局： 「市民は」という話がなされてきたが、次に「行政は」というテーマに話をしてほしい。そこから具体的な指針の記載に入っていきたい。  
1%事業の基盤との考え方もあり、次年度具体的な構築が始まることも考えて、指針の策定を進めていただきたい。